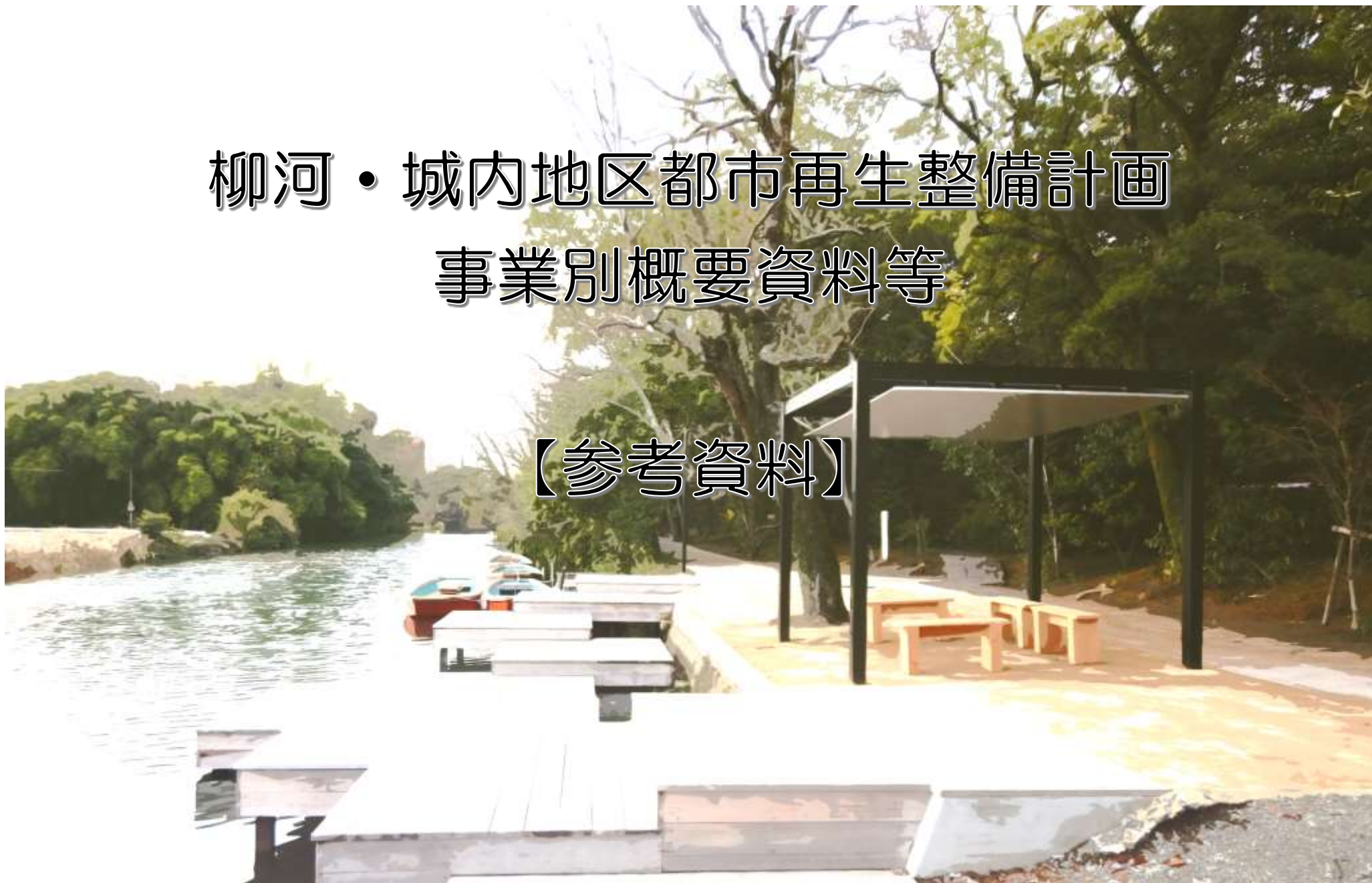


# 柳河・城内地区都市再生整備計画 事業別概要資料等

【参考資料】



## はじめに・・・

### ●本事業で活用した国の補助事業（社会資本整備総合交付金）

本事業は、国の交付金事業の一つである社会資本整備総合交付金を活用しています。社会資本整備総合交付金とは、国土交通省所管の地方公共団体向け個別補助金の一つであり、総合的な交付金として平成 22 年度に創設されたものです。また、活力創出、水の安全・安心、市街地整備、地域住宅支援といった政策目的を実現するため、地方公共団体が作成した社会資本総合整備計画に基づき、目標実現のための基幹的な社会資本整備事業のほか、関連する社会資本整備等を総合的・一体的に支援する制度です。

### ●都市再生整備計画

事業名にも使われている『都市再生整備計画』。これは、上記にある『社会資本整備総合交付金』の中の一つの基幹事業で、平成 22 年度の社会資本整備総合交付金創設前は『まちづくり交付金』と呼ばれておりました。地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫を活かせる補助事業の一つです。

また、地域が抱える課題やまちづくりのビジョンに基づき、まちづくりの目標や数値指標を達成するために必要な事業を記載した計画を作成（Plan）し、成果を意識しながら実施（Do）し、事業完了後（基本は交付期間最終年度）に目標の達成度を評価（Check）するとともに、必要な改善点は速やかに改善（Action）という一連のサイクルが導入された計画となります。※Check 後はその評価を国へ報告並びに住民への公表が義務付けられています。

## ●本事業の概要

○事業名：柳河・城内地区都市再生整備計画（地区名：柳河・城内地区）

○計画の目標：市街地のまち歩き観光の振興と賑わいの創出を図る

○事業期間：平成25年度～平成29年度（5年間）※事業費を繰越し、整備完了は平成30年度

○区域面積：197ha（1.97km<sup>2</sup>）

○総事業費：370,000,000円

○補助金（国費）：148,000,000円（総事業費の40%）

○主な事業：内堀線の改修、新外町緑地広場の新設、多目的公衆トイレの改修、市街地内のサインの改修等

○整備概要図：次ページに記載

■基幹事業  
 (地域生活基盤施設)  
 ・(仮称)新外町緑地広場



■基幹事業  
 (高質空間形成施設)  
 ・多目的公衆トイレ



■関連事業  
 重点地区型まち並み整備に関する研究  
 (沖端地区)

□提案事業  
 (地域創造支援事業)  
 ・地域交流空間用地

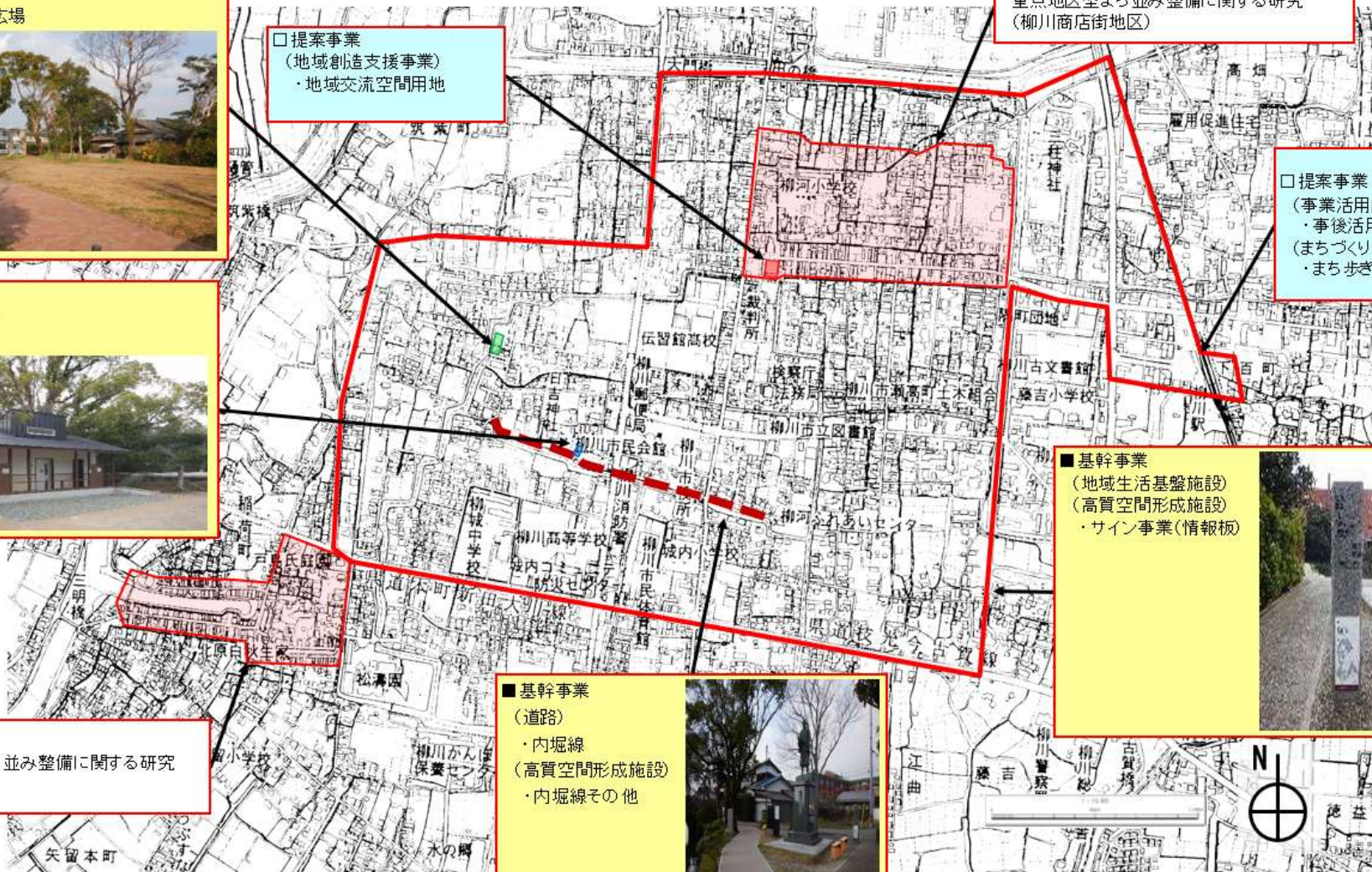
■関連事業  
 重点地区型まち並み整備に関する研究  
 (柳川商店街地区)

□提案事業  
 (事業活用調査)  
 ・事後活用調査  
 (まちづくり活動推進事業)  
 ・まち歩き推進事業

■基幹事業  
 (地域生活基盤施設)  
 (高質空間形成施設)  
 ・サイン事業(情報板)

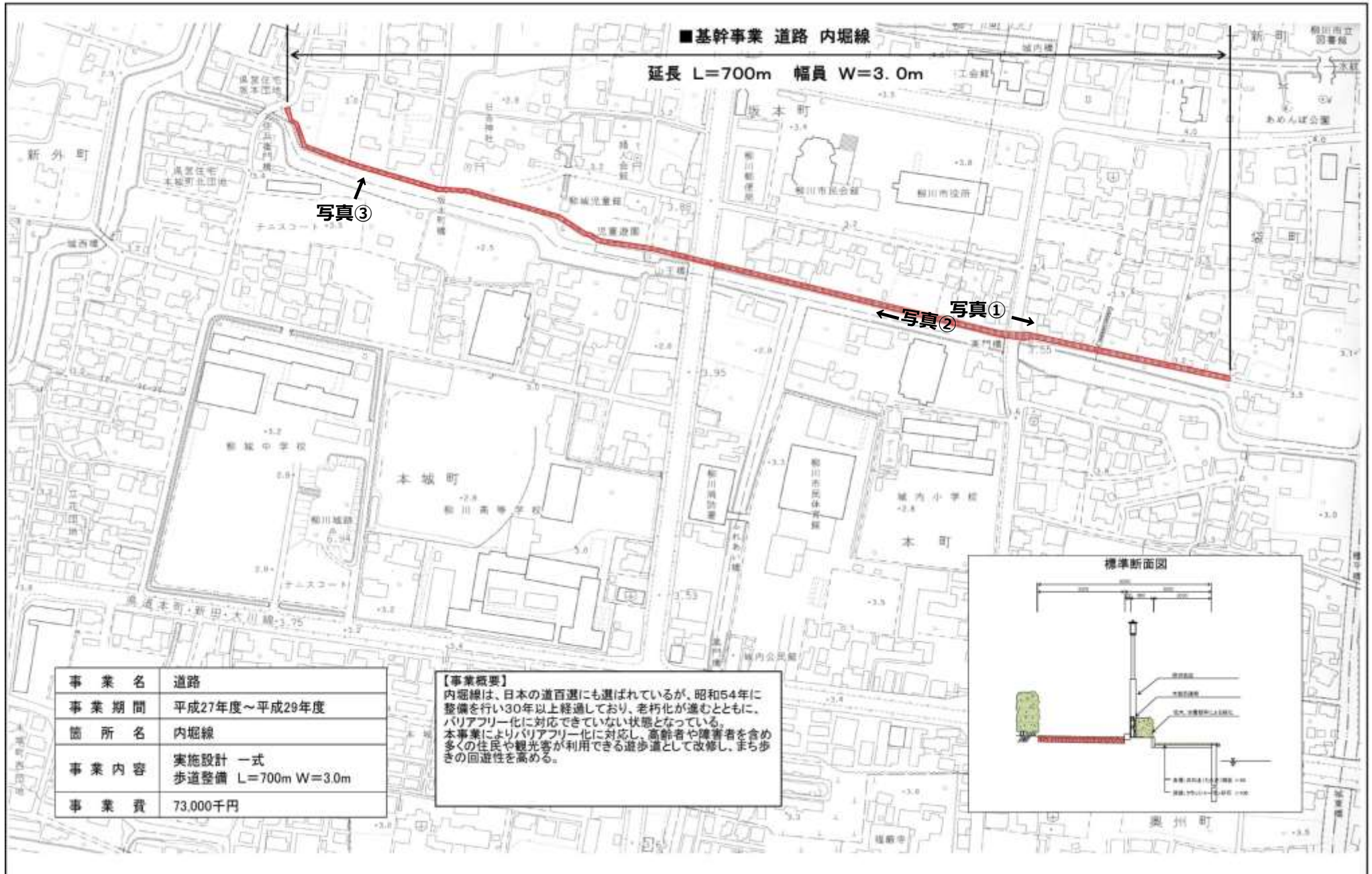


■基幹事業  
 (道路)  
 ・内堀線  
 (高質空間形成施設)  
 ・内堀線その他

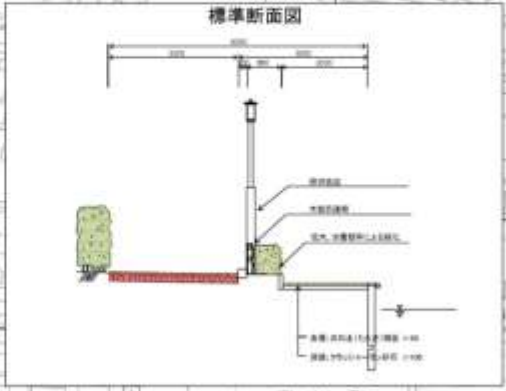
# 個別事業概要

## ■基幹事業・・・道路(内堀線)



事業名	道路
事業期間	平成27年度～平成29年度
箇所名	内堀線
事業内容	実施設計 一式 歩道整備 L=700m W=3.0m
事業費	73,000千円

**【事業概要】**  
 内堀線は、日本の道百選にも選ばれているが、昭和64年に整備を行い30年以上経過しており、老朽化が進むとともに、バリアフリー化に対応できていない状態となっている。本事業によりバリアフリー化に対応し、高齢者や障害者を含め多くの住民や観光客が利用できる遊歩道として改修し、まち歩き回遊性を高める。



① (段差解消)

② (連続性演出)

③ (護岸整備)

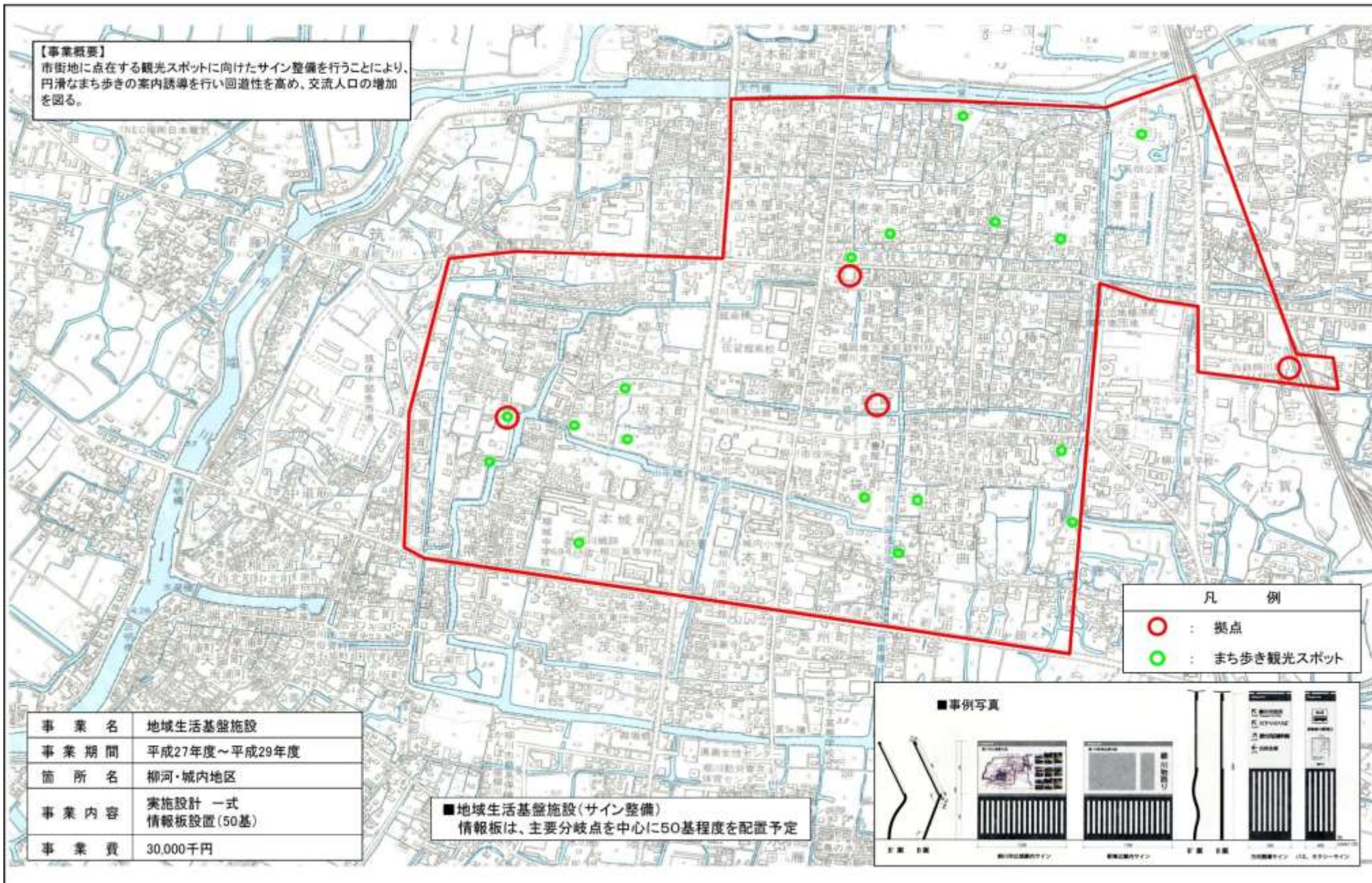


※施工前：上段  
施工後：下段

## ■基幹事業・・・地域生活基盤施設(サイン事業)

### 【事業概要】

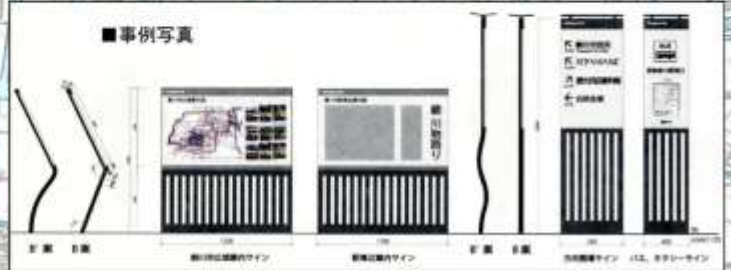
市街地に点在する観光スポットに向けたサイン整備を行うことにより、円滑なまち歩きの実内誘導を行い回遊性を高め、交流人口の増加を図る。



凡 例	
	： 拠点
	： まち歩き観光スポット

事業名	地域生活基盤施設
事業期間	平成27年度～平成29年度
箇所名	柳河・城内地区
事業内容	実施設計一式 情報板設置(50基)
事業費	30,000千円

■地域生活基盤施設(サイン整備)  
情報板は、主要分岐点を中心に50基程度を配置予定



位置図

凡例	記号	内容
	緑線	エリア
	赤線	主要ルート (駅中継先)
	紫線	主要ルート (商店街経由)
	青線	主要ルート (商業地区)
	黄線	主要ルート
	●	看板サイン (112基)
	○	看板サイン仮設 (127基)
	①	御影石 (1高) (2高) (3高)
	②	エリアマップ (2高) (3高) (2高)
	③	案内板 (2高) (3高) (113高)
	④	トンネル (7高) (3高) (113高)
	⑤	床面 (2高) (3高) (2高)

※1・3・3は未実施  
※2・9・3・2は未実施



御影石改良パターン



北原白秋      立花宗茂      真勝寺



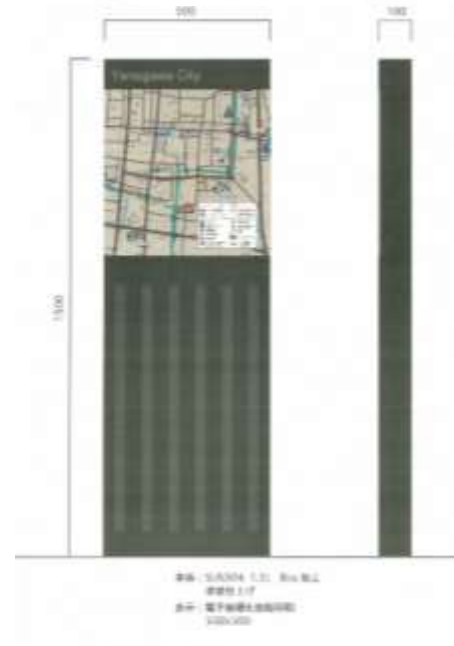
改良：19基、新設：10基



総合案内サイン



エリアマップ

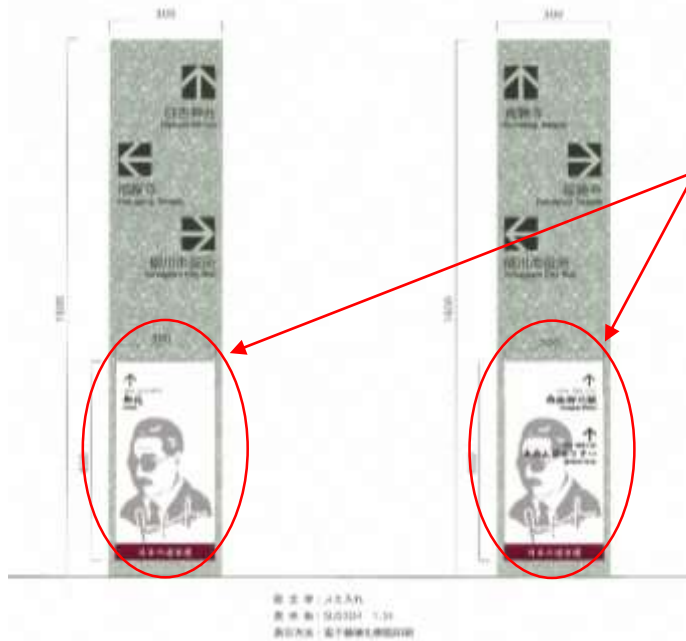


# サインレイアウト

床版・・・路面貼付



御影石（改良）・・・補助版の追加及び文字墨入れ作業



トンボ（新設及び改良）



## ■基幹事業・・・地域生活基盤施設((仮称)新外町緑地広場)



事業名	地域生活基盤施設
事業期間	平成26年度～平成28年度
箇所名	(仮称)新外町緑地広場
事業内容	測量設計 一式 緑地広場用地 A=1,400㎡ 緑地広場整備 A=1,400㎡
事業費	58,000千円

**【事業概要】**  
 内堀線とも連結する外堀線沿いに、まち歩き推進と遊歩道の回遊性向上のための機能充実を図るため緑地広場を整備し、拠点間の休憩地として憩いの場を提供する。  
 また、整備地はかつて柳川藩士が住んだ屋敷跡であり、既存の高木を利用した木陰造りやその名残を活かした緑豊かな整備とする。

①

②

③



※施工前：上段  
施工後：下段

# ○新外町緑地広場説明板



## ■基幹事業・・・高質空間形成施設(内堀線)

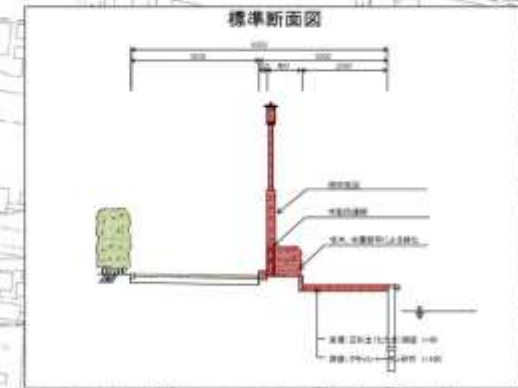
### ■基幹事業 高質空間形成施設 内堀線

植栽・緑化施設 A=530㎡  
土系舗装 A=1,950㎡  
照明施設等

写真②

写真③

写真①



事業名	高質空間形成施設事業
事業期間	平成27年度～平成29年度
箇所名	内堀線
事業内容	実施設計 一式 植栽・緑化施設 A=530㎡ 土系舗装 A=1,950㎡ 照明施設
事業費	125,000千円

#### 【事業概要】

内堀線は、川下リコースに併走し日本の道百選にも選ばれているが、昭和54年に整備を行い30年以上経過しており、老朽化が進んでいる。  
本事業により改修を行い、歴史的な遺産である掘割周辺との調和を図り、まち歩きの魅力を高める。

① (木橋)



② (親水デッキ)



③ (パーゴラ)

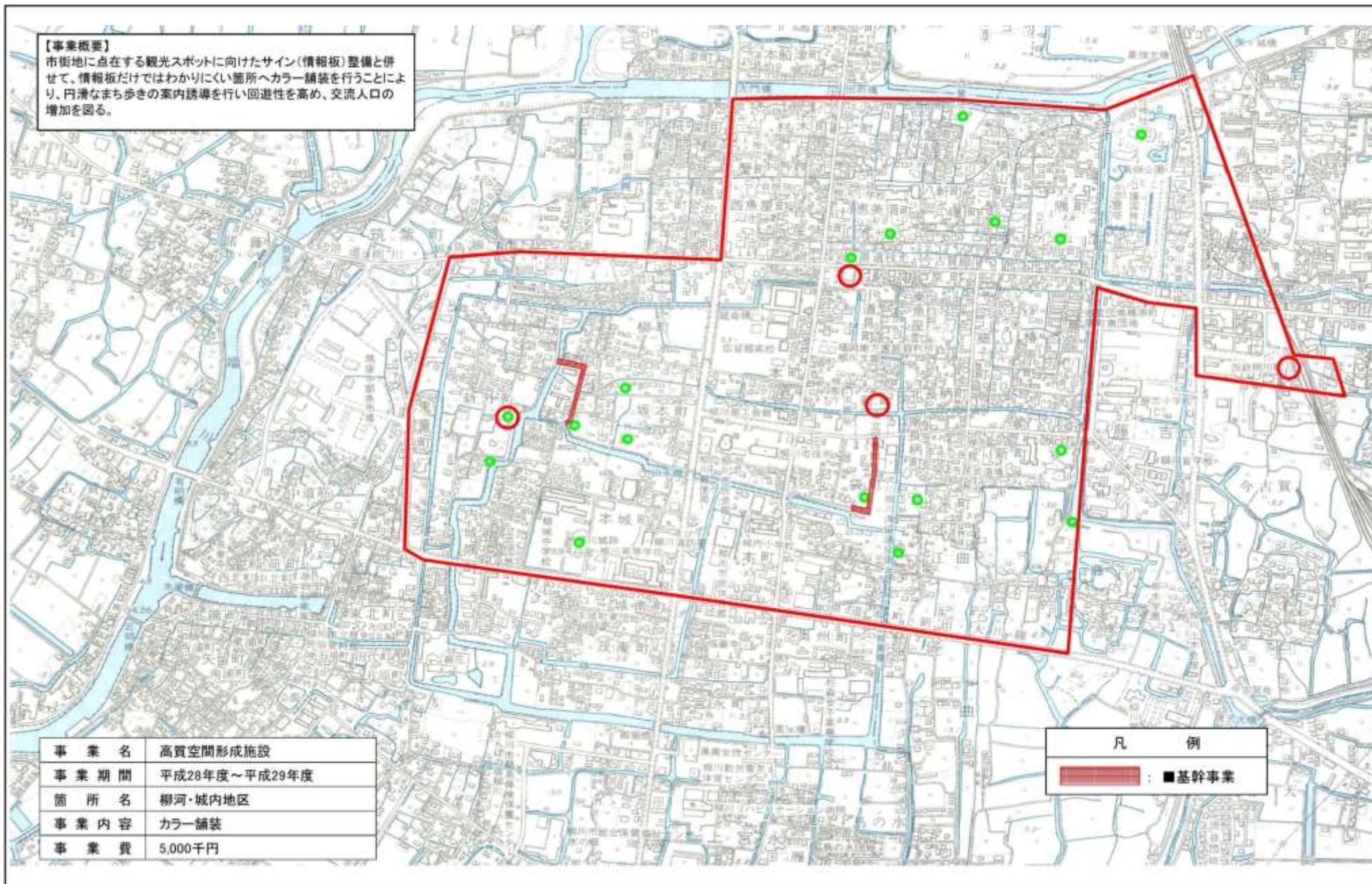


※施工前：上段  
施工後：下段

# 交付対象事業別概要設計図

**【事業概要】**

市街地に点在する観光スポットに向けたサイン(情報板)整備と併せて、情報板だけではわかりにくい箇所へカラー舗装を行うことにより、円滑なまち歩きの実現と案内誘導を行い回遊性を高め、交流人口の増加を図る。



事業名	高質空間形成施設
事業期間	平成28年度～平成29年度
箇所名	柳河・城内地区
事業内容	カラー舗装
事業費	5,000千円

凡例
 : ■基幹事業

## ■基幹事業・・・高質空間形成施設(多目的公衆トイレ)



**【事業概要】**  
 内堀線沿いに建つ既存トイレは、多目的トイレもなく車椅子、乳母車での利用や、段差もあるため高齢者の利用に支障をきたしている。  
 まち歩き推進と回遊性の機能向上に向け、内堀線整備と合わせ、既存トイレをバリアフリー対応の公衆トイレに改修を行い、高齢者や障害者を含め多くの住民や観光客が利用できる遊歩道としての機能の充実を図る。

事業名	高質空間形成施設
事業期間	平成28年度
箇所名	多目的公衆トイレ
事業内容	設計監理 一式 建築工事 一式 (1棟 A=21㎡程度 (多目的トイレ、男子トイレ、女子トイレ))
事業費	22,000千円





写真① (施工後)



写真② (施工後)

# 地域創造支援事業(地域交流空間用地費)

① 現在の状況

② 活用イメージ

③ 活用イメージ

写真①②

**【事業概要】**  
 本事業により、中心商店街の地域内にある未利用地を購入し、この用地で集客のためのイベント等を実施し、地域の交流空間として賑わいの創出を図る。

事業名	地域創造支援事業
事業期間	平成25年度
箇所名	柳河・城内地区
事業内容	地域交流空間用地
事業費	53,000千円

施工前



用地購入後（イベント実施）



よかもん館オープン  
(190427)



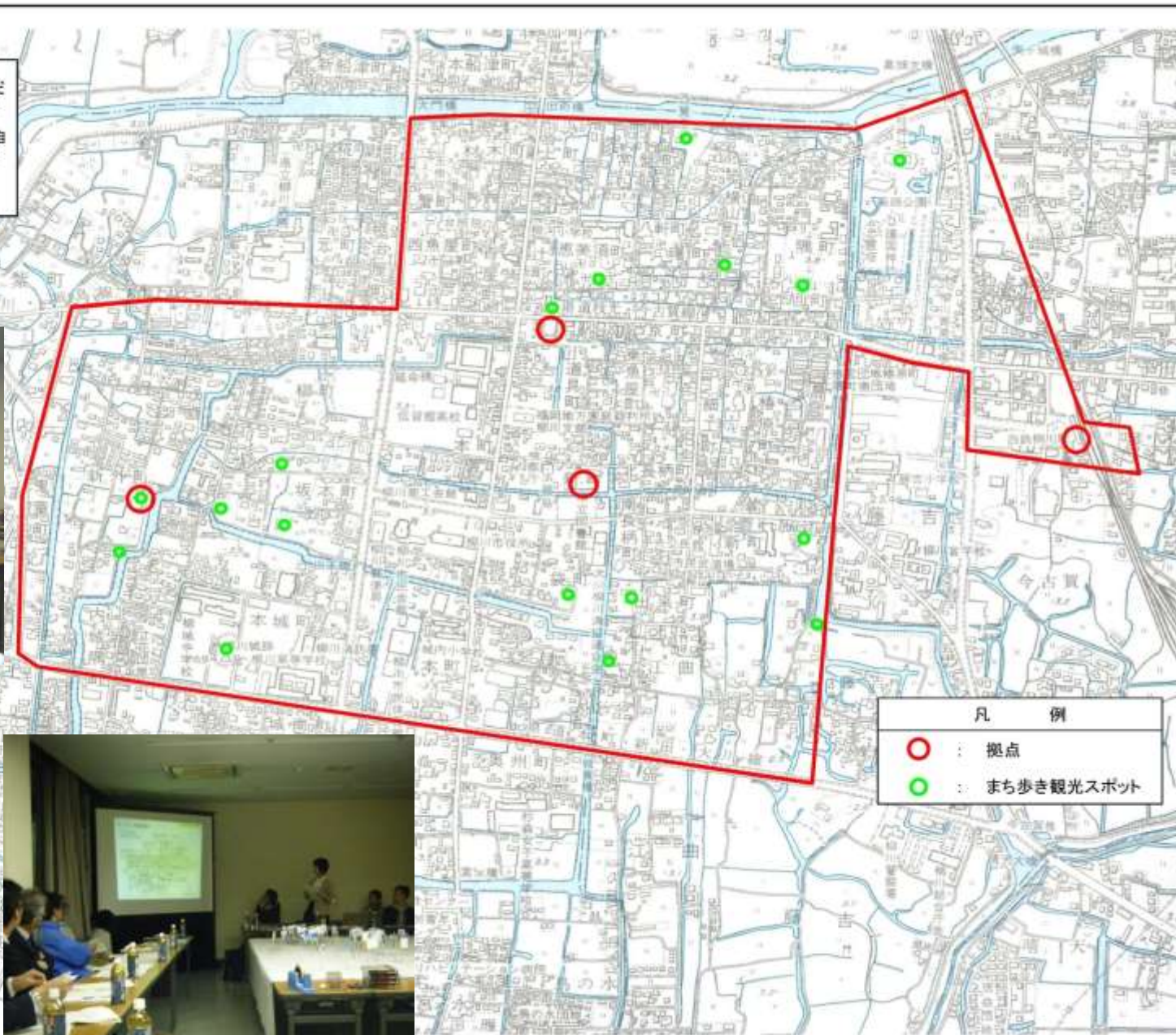
よかもん館オープン  
(190427)



# まちづくり活動推進事業(まち歩き推進事業)

**【事業概要】**

交流人口の増加を図るためには、川下りや一部地域の観光だけでなく、市街地に点在する観光スポットを巡るまち歩きの推進を図る必要がある。  
 本事業により、市街地の拠点等を活用したイベントの開催や自転車等を使った交通手段の実証等を行い、まち歩きの推進を図る。



事業名	まちづくり活動推進事業
事業期間	平成27年度～平成29年度
箇所名	柳河・城内地区
事業内容	まち歩き推進のイベント及び移動方法等の実証
事業費	2,000千円



## 関連事業としての取組み

都市再生整備計画の関連事業として住民参加のワークショップを以下の内容で実施しました。

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
① まちなみワークショップ 京町一・京町二・旭町南および恵美須町 恵美須町 恵美須町・曙町・旭町北を対 象地区として、これからのまちなみづくり方 針や取組みを、地域・行政・大学がともに 考える場。	予定どおり実施した ●	【実施頻度】：9回 【実施時期】：H26.5～H27.8	1) 市民団体の活動との連携 2) サインの改善を行った推奨ル ートと交通網との連動
	予定はなかったが実施した	【実施結果】： 1) 空き家活用等を行う市民団体の立ち上げ 2) 柳川駅から沖端までのまちあるきモニタ ツアーの開催とサインの改善	
	予定したが実施できなかった		
② まちなみワークショップ 沖端地区を対象地区として、これからのま ちなみづくり方針や取組みを、市民・行政 大学がともに考える場。さげもん祭り期間 中の開催支援。	予定どおり実施した ●	【実施頻度】：H28年度：5回、H29年度：6回 H30年度：4回 【実施時期】：H28.10～H30.12	1) 地域と行政の協働(1) (整備中の集客等課題対策 の検討) 2) 地域と行政の協働(2) (整備後の利活用空間の運 用、活用の検討)
	予定はなかったが実施した	【実施結果】： 1) 利活用空間を想定した社会実験の実施 2) 地域主体の地域力向上の取組み (私設無人図書館の開設)	
	予定したが実施できなかった		

### ① まちなみワークショップ（柳川商店街周辺地区）



地域の活性化に資する重点地区型まちなみ整備に関する取組みの第一弾として、本地区においてまちなみワークショップを開催した。本ワークショップは、景観づくりを通じた地域づくりと地域の活性化を目指した。序盤で行ったヒアリングや意見集約により地域の課題や地区環境に対する評価を抽出した。参加者の評価は、『古い建物や寺社、通りや水辺の雰囲気は良いが、歩行環境や車環境が悪く、空き家空地も増えてきており、地区が持っている良さを十分に活かしてきていない』であった。

住民主体の事業展開を重視し、行政が持ち込んだテーマではなく、ワークショップで抽出した評価を元に、2チーム（サインチーム・空き家チーム）を編成し、調査や勉強会を積み重ねた。サインチームは、大学生のツアー等をもとに広域のサインの改善、空き家チームは、後に市民団体となり、現在も活動が継続している。



(写真)

- 前頁 ワークショップの様子
- 本頁 左 先進地勉強会  
(地元西福寺にて)
- 本頁 右 空き家チームにより活用  
されている空き家の様子

## ②まちなみワークショップ (沖端地区)



地域の活性化に資する重点地区型まちなみ整備に関する取組みの第二弾として、景観づくりを通じた地域づくりと地域の活性化を目指し、また数年後の整備を見据えてワークショップを進めた。

序盤で行ったヒアリングや意見集約により地域の課題や地区環境に対する評価を抽出した。参加者が選択したテーマは、『沖端らしいみんなが集まる場所づくり』と『沖端をより味わうための情報発信』であった。

まずは、『沖端らしいみんなが集まる場所づくり』として、昔一家に一台あった木製の椅子(バンコ)を誇れる景観にまずは置き沖端にゆったりと滞在する人を増やす社会実験では、参加者でバンコを手作りし柳川特産のゴザを掛け、最も賑わう“さげもんまつり”の時期に設置した。

その後、住民主体の事業展開を重視し、水辺活用のスペシャリスト泉英明氏の講演、有志による長門湯本視察を経て、地元商店会を中心に手作りの私設図書館「おきのはた図書館ペチカ」が開設された。

沖端の整備を数年後に控え、道路の一部を利活用空間として活用するべくデザインの検討を進めている。今後この利活用空間をいかに地域力向上につなげていくことができるか、地域とともに検討を進める。



(写真)

- 左上 バンコ設置社会実験
- 左下 バンコ製作の様子
- 中央 ペチカの報道記事
- 右下 平日の夕方のペチカの様子

## 評価・分析等

### ●指標1について【観光入込客の推移】

事業実施前後での主なイベントや移動手段等の観光客数は以下のように推移しています。

名称等/対象年	H24 (2012)	H29 (2017)	差	備考
<b>観光客全体</b>	1,174,000	1,418,000	+244,000	
<b>★市内の主なイベント</b>	511,000	555,000	+44,000	観光客全体の割合ほど増えていない。
雛祭り・さげもんめぐり	144,000	142,000	-2,000	
中山大藤まつり	170,000	180,000	+10,000	
ひまわり園	21,000	106,000	+85,000	
よかもん祭り	66,000	17,000	-49,000	
有明海花火フェスタ	110,000	110,000	±0	
<b>★移動手段の変化</b>				交通手段では車が一番増加 ⇒ 小グループの観光客増
電車	352,200	359,000	+6,800	※H24の数値はH29で公表された数値となっているので、全体数は一致しない
大型バス	183,200	226,000	+42,800	
車	638,200	833,000	+194,800	
<b>★その他</b>				
川下り利用客	292,154	428,300	+136,146	外国人観光客や車での来訪客の増加が要因?
外国人観光客	36,954	245,359	+208,405	観光客全体の増加とあまり変わらないくらいの増加

※観光動態調査より抜粋

●指標2について【調査方法及び結果の整理】

○調査方法

調査した内容	調査箇所	実施頻度・実施時期・実施結果	備考
商店街歩行者通行量カウント調査 (自転車含む)	京町商店街 (断面交通量)	【実施頻度】:H30 年度に1回 【実施時期】:10 月 18 日 8:00~20:00 【実施結果】:1,024 人(自転車を含む)	前後を比較するため、計画前とほぼ同条件での調査を実施

○調査結果分析

項目	事前調査	整備後調査	備考
曜日・時間帯	水曜日・8時~20時	木曜日・8時~20時	平日且つ、イベント等の実施前後以外で実施
歩行者通行量	420 人	527 人	+107 人
自転車通行量	654 人	497 人	-157 人
学生の通行量	194 人	255 人	+ 61 人



## ●指標3について【事業箇所周辺住人意見聞き取り】

事業を行った周辺の行政区長や住民などから本事業に関する意見の聞き取り調査を実施しました。主な意見は以下のとおりです。

### ○よくなったという主な意見

- ・全体的にきれいになった
- ・整備されて明るくなった
- ・バリアフリーになって歩きやすくなった（袋町区間）
- ・遊歩道が日吉神社の奥まで整備されて歩きやすくなった
- ・近所の方で散歩している人が多くなったように感じる
- ・周りの風景になじんでいる見目でよい
- ・夜の雰囲気も良くなった

### ○改善した方がよいという主な意見

- ・統一性をもった緑化の整備（遊歩道沿いの枯れている木の対応や植栽柵内での樹木の統一等）
- ・緑地広場はイベント時の駐車場不足が心配
- ・田中吉政公の銅像のところはもっとグレードを上げた整備をした方がよい（中途半端に感じる）

### ○その他（今後のまちづくりに関する意見等）

- ・掘割については、昔ながらの面影を残した整備をしてほしい
- ・掘割に平行した遊歩道についても同様に一般的な黒いアスファルト舗装等にはしないでほしい
- ・川下りコースを一步外れたところもある程度はきれいにしておいてほしい（一步外れると汚いところが多い）
- ・掘割内の維持管理をもっとしてほしい。特に堀底のヘドロ対策。川下りの竿をさした時にヘドロが出てこないような対策をした方がよいと思う
- ・遊歩道沿いだけでも釣り（バス釣り）禁止区域にした方がよい（歩いている人があぶない）

## ●指標の目標達成、未達成の要因整理

以上を踏まえ、指標の目標達成度の要因を以下のように整理しました。

指 標	目標達成度の要因
指標1	外国人観光客の増加や小グループ観光客の増加が目標達成の大きな要因だと思われるが、事業に対する近隣住民への聞き取り調査の結果、『整備後、散策している人が増えていると感じる』という声が多かったことから、事業として一定の成果はあったと思われる。
指標2	通行量全体数は減少しているものの、歩行者数のみで比較すると増加傾向にある(420人⇒527人)。また、通行量のカウントには通勤、通学による自転車通行量も含まれているので、それらの形態変化による影響が大きいと推測される。
指標3	本事業以外にも事業前後で、駅舎の改築や、区画整理事業、有明海沿岸道路建設などのインフラ整備が完了しており、それらの影響が大きいと推測されるが、整備地区近隣住民の方からも本事業箇所が『きれいになった』という声が一番多かったため、事業として一定の成果はあったと思われる。